

# 岐阜県内の私立幼稚園における英語活動の実態と 保育者の関わり方に関する研究

## A Survey on English Education and the Roles of Nursery Teachers in Private Kindergarten in Gifu Prefecture

伊藤宏支\*・岡崎善治\*

Hiroshi ITO, Yoshiharu OKAZAKI

### 要 約

英語教育の低年齢化にともない、多くの幼稚園で英語活動が実施されている。幼稚園の英語活動は、外国人講師が主として担当しており保育者が補助にはいつている現状である。本研究は保育者に焦点を当て私立幼稚園の英語活動の実態と保育者の関わり方、英語活動に関する考え方について園長及び保育者に対して調査をおこなった。その結果、英語活動における保育者の重要性と問題点が明らかになった。これらを基に保育者の英語活動における役割を提言した。またアンケート結果から園長と保育者が求める養成施設の学生が学ぶべき英語についても言及した。

### キーワード：

英語活動、保育者、私立幼稚園

### I. 緒言 (I. 問題)

本研究の目的は、岐阜県の私立幼稚園を対象に実施した英語活動のアンケート結果を基に私立幼稚園における英語活動の実態と保育者の関わり方について考察することである。

2020年度から次期学習指導要領が小学校で実施される。これにより現行の学習指導要領では、小学校5・6年生で年間35単位時間の「外国語活動」が必修化されていたものが、次期学習指導要領では「外国語活動」を小学校3・4年生で扱うことになり、小学校5・6年生では教科化することになる。学習指導要領の改訂により英語教育の低年齢化が進み、小学校英語教育から幼児英語教育へと、より低い年齢から英語活動が行われ、英語活動が増えることで今以上に英語教育が重要になることが推測できる。すでに幼稚園でも英語活動はおこなわれているが、英語活動の担当者について秀(2014)によれば、調査を実施したすべての私立の幼稚園・保育所で英語活動を外国人講師が担当し保育者が補助に入っている<sup>1)</sup>。糸山(2017)

によると自身が担当した教員免許更新講習(幼児英語教育)の受講参加者10名に対しておこなったアンケートにおいて、英語指導プログラムの担当者は外国人講師が8園、日本人英語専門講師が2園という結果がでて<sup>2)</sup>いる。多くの園において外国人講師が英語活動を担当しており保育者は補助としての位置づけと考えられる。特に外国人講師が担当する園が多く、外国人講師がいなければ英語活動が成立しない状態にあるともいえる。また外国人講師の多さについて横井(2015)は、日本人の幼稚園教諭には英語指導が困難であることが原因ではないかとしている<sup>3)</sup>。これらの現状を踏まえると英語活動をおこなう園が増加すれば、外国人講師が増加していくことになるが、英語活動を外国人講師が担当することについて、秀他(2013)は、保護者に実施したアンケートで英語活動は外国人がすべきとの回答に対して否定的な意見を述べている<sup>4)</sup>。

先行研究では、幼稚園における英語活動の研究は、おこなわれているものの保育者は英語活動の

\*本学専任講師

補助に入ること以外言及されておらず、補助時の保育者に対して焦点を当てたものはない。保育者は園児に接する時間が最も長く、園児との接し方を熟知している為、保育者が英語活動へ積極的に関わることは、園児の視点で英語活動を実施することが可能になり、外国人講師と同等の立場でおこなうことで、より効果的な活動になると考えられる。

本研究は、英語活動の実態と保育者の関わり方を調査する為、私立幼稚園に焦点を当てる。理由としては、実施の有無を含め各園の方針により英語活動が実施される為、園によって保育者の関わり方が異なることが考えられる。さらに2012年にベネッセ総合研究所がおこなった調査<sup>5)</sup>によると英語活動を実施している割合が国公私立合わせて75.1%であった。中でも私立幼稚園は75.1%のうち58.0%を占めており、2007年におこなわれた同調査の結果より10.4%も増加していることから、実施率がさらに高くなっていることが予測される為である。また本学が岐阜県の大学であることで対象を岐阜県内の私立幼稚園とする。幼稚園の英語活動は、必ずしも同じとは考えられず、園の方針により活動内容が異なることが予測される。英語活動が多様であれば、これらに対応できるようにすることも必要であると考え、本学の幼稚園教諭養成における英語教育の方向性も検討していく。

## II. 方法

### 1. 調査対象

本研究は、岐阜県内各市町（岐阜市、大垣市、高山市、多治見市、関市、中津川市、美濃市、瑞浪市、羽島市、恵那市、美濃加茂市、各務原市、可児市、山形市、揖斐川町、笠松町、北方町、御嵩町）にある26の私立幼稚園の園長及び保育者に対してアンケートをおこなった。

### 2. 調査期間

2018年8月上旬から9月下旬にかけて実施した。

### 3. 調査の方法

岐阜県内の私立幼稚園の園長に趣旨を電話にて説明し、調査用紙を郵送にて園に配布する。

園長用のアンケートについては、園長自身が回答する。保育者は各配属年齢において1枚のアンケート用紙とする為、同年齢クラスに複数保育者がいる場合は相談しながら回答する。

アンケート調査は、園長用が20の項目と回答内容による追加質問が4項目である。保育者のアンケート調査の質問数は25の項目と回答による追加質問が8項目である。質問は、園長と保育者共通の項目と別々の項目があり、共通の質問は13項目と回答による追加質問2項目である。

アンケート結果を基に以下の視点で検証をおこなった。

- (1) 私立幼稚園の英語活動の実施状況
- (2) 保育者の英語活動における現状と求められる役割
- (3) 幼稚園養成施設の学生に求める英語力

本研究は、中京学院大学短期大学部研究倫理審査会の承認を受け実施するものである。（承認番号：第30005号）

### 4. 倫理的配慮

調査用紙の結果は研究責任者によって厳重に管理され、厳正にプライバシーを守り取り扱われることが明記されている。また調査用紙は無記名であり、回収時にも個人が特定されることのないように配慮した。

調査用紙のフェイスシートにおいて、研究の協力に同意できなければ、回答しなくてもよいとする項目が設けてあり参加を拒否できる配慮がなされている。

## III. 結果

岐阜県内の26の私立幼稚園に対して園長26名及び保育者86名にアンケートを実施し、24の園から園長23名、保育者66名の回答が得られた。

回収率は、園 92.3%、園長 88.5%、保育者 76.7%であった。

今回のアンケートでは、英語活動を実施していない場合でも回答を依頼しているが、本調査は実態の把握を目的とすることから、英語活動を実施している園の園長及び保育者の回答のみで検証をおこなった。よって回答数 24 園に対して英語活動を実施している園は、23 園で園長 22 名、保育者 63 名の有効回答が対象となる。

アンケート結果の検証にあたり、園長及び保育者に共通する質問項目については、園全体に関わる回答は園長、英語活動に直接関係する回答は保育者、それ以外については両者の回答を基におこなった。各表の園長及び保育者欄は、アンケートの回答者を表している。

### 1. 私立幼稚園の英語活動の実施状況について

英語活動を実施している園は、回答数 24 園に対して 23 園であり、回答のあった園での英語活動実施率は 95.8% であった。

園における英語活動を誰が主に担当しているかについて、その結果を示したのが表 1 である。

表 1 英語活動の主な担当者

英語活動を主に担当される方はどのような方ですか。(複数回答可)		
選 択 枠	園 長	%
担任保育者	0	0.0
外部の日本人英語講師	1	4.5
外国人講師	17	77.3
担任保育者と外国人講師	1	4.5
外部の日本人講師と外国人講師	1	4.5
担任保育者、外部の日本人講師及び外国人講師	1	4.5
外国人講師と英語の話せる保育者	1	4.5
小学校英語指導者資格保持者の保育者	0	0.0
小学校英語指導者資格保持者の外部の日本人英語講師	0	0.0
小学校英語指導者資格保持者の外国人講師	0	0.0
合 計	22	99.8

小数第 2 位以下四捨五入により、各項目の合計は 100% にならない。

最も割合の高かったのが、「外国人講師」の 77.3% であった。「外部の日本語講師」や複数で担当している園はそれぞれ 1 園ずつであったが、「担任保育者」や小学校英語指導者資格保持者が単独で英語活動を実施している園はなかった。

外国人講師に英語活動を担当してもらおう主たる理由については表 2 に示す通り、園長及び保育者共にネイティブスピーカーの発音を聞かせる為や外国人とのふれあいが目的であると回答している。

表 2 外国人講師が英語活動を担当する理由

外国人講師が英語活動を担当する(もしくは担当してほしい)主たる理由を教えてください。						
選 択 枠	園長	%	保育者	%	全体	%
ネイティブの英語を聞かせるため	9	69.2	23	56.1	32	59.3
外国人とのふれあい	4	30.8	18	43.9	22	40.7
英語活動ができる保育者がいない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	13	100.0	41	100	54	100.0

小数第 2 位以下四捨五入

### 2. 保育者の現状と求められる役割について

保育者の英語活動での役割については、表 3 で示す。最も割合が高かったものは、「外国人講師の補助」の 76.3% であった。次に「監督者」の 16.9% であった。その他は「子どもと共に参加する」という意見であった。

英語活動における打ち合わせ回数については、最も多かった回答が、打ち合わせを「おこなわない」の 62.2% という結果であった。次いで「活動毎におこなう」が 24.4% であった。

表 3 英語活動時の保育者の役割と打ち合わせ回数

英語活動時の担任保育者の役割を教えてください。		
選 択 枠	保育者	%
主たる指導者	1	1.7
外国人講師の補助(英語活動)	45	76.3
監督者	10	16.9
その他	3	5.1
合 計	59	100.0

外国人講師の補助（英語活動）と回答した場合のみお答えください。外国人講師と活動内容について事前打ち合わせをしますか。		
選 択 枠	保育者	%
活動毎におこなう	11	24.4
週に1回程度（複数回実施の場合）	2	4.4
月に1回程度（複数回実施の場合）	4	8.9
おこなわない	28	62.2
合 計	45	99.9

小数第2位以下四捨五入により、各項目の合計は100%にならない。

表4は保育者が補助として英語活動に携わるうえで困ることはあるかという質問に対する回答である。困ることが「ない」という回答が42.3%ではあるものの「ある」「少しある」との回答が合計で、57.7%と半数以上であった。理由として最も多かったのが、「担任保育者とのコミュニケーション不足」と「日本語能力不足」が23.1%、「外国人講師が園児とコミュニケーションを取れない」で17.9%と続いた。

表4 外国人講師の補助で困ることはあるか

外国人講師の補助に入る際、困ることはありますか。		
選 択 枠	保育者	%
かなりある	0	0.0
ある	6	11.5
少しある	24	46.2
ない	22	42.3
合 計	52	100.0
ない以外を回答した場合その理由についても教えてください。（複数回答可）		
選 択 枠	保育者	%
外国人講師が園児とコミュニケーションを取れない	7	17.9
担任保育者とのコミュニケーション不足	9	23.1
英語母語者ではない	1	2.6
英語教育に関する知識不足	6	15.4
文化の違いによる相違	3	7.7
日本語能力不足	9	23.1
その他	4	10.3
合 計	39	100.1

小数第2位以下四捨五入により、各項目の合計は100%にならない。

英語活動を保育者が担当することについて園長と保育者の結果を表5に示す。園長の結果は、「対応すべき」が9.1%、「対応できるならよい」が54.5%で園長全体の63.6%を保育者が担当することに対して肯定的であった。反対に保育者の結果は、「対応できるならよい」が48.4%であるものの自身が担当したいかに対しては、担当したいと「思わない」が82.3%となっており、「思う」「少し思う」を含めた肯定的な回答は20%を下回っている。理由としては、英語を指導する知識や技術がないという意見があった。英語活動を担当したいと思う理由は、「日本人でも頑張れば話せるようになるという見本になれるから」、「自分のやりたい様にやれるから」という意見であった。

表5 担任保育者が英語活動を担当することに対する考え方

担任保育者が主として英語活動を担当することに対してどう考えますか。						
選 択 枠	園長	%	保育者	%	全体	%
対応すべき	2	9.1	0	0	2	2.4
対応できるならよい	12	54.5	30	48.4	42	50.0
どちらともいえない	0	0.0	24	38.7	24	28.6
対応しないほうがよい	8	36.4	8	12.9	16	19.0
合 計	22	100.0	62	100.0	84	100.0
あなたは主として英語活動を担当したいと思いますか。						
選 択 枠	保育者		%			
強く思う	0		0.0			
思う	4		6.5			
少し思う	7		11.3			
思わない	51		82.3			
合 計	62		100.1			

小数第2位以下四捨五入により、各項目の合計は100%にならない。

英語活動の方法を学ぶ機会の必要性については表6のとおり、「強く思う」6.5%、「思う」40.3%、「少し思う」41.9%となり「思わない」を除くと88.7%が英語活動の方法についての学ぶ必要性があるという結果となった。

表 6 英語活動の方法を学ぶ機会の必要性

幼児への英語活動の方法を学ぶ機会は必要だと思いますか。 (文法ではなく幼児英語教育を中心とした学習)			保育者	%
強く思う	選	択	4	6.5
思う	択	枠	25	40.3
少し思う			26	41.9
思わない			7	11.3
合計			62	100.0

小数第2位以下四捨五入

### 3. 養成施設の学生に求める英語力について

養成施設の学生に保育者となるうえで求める英語力とはどのようなものなのか、園長と保育者の回答が表7である。

最も望まれているのが、「幼稚園で使用できる英語・英会話」で園長、保育者ともに高く全体の割合としても81.7%となっている。続いて「英語活動を指導できるスキル」が8.5%となり、「文法」は5.6%にとどまった。その他の意見としては、「外国人講師と会話ができる」や、「必用最低限の日常会話」であった。

表 7 学生に学んでほしい英語の内容

大学等の保育者養成施設の学生には、英語科目の中で主としてどのような内容を学んでほしいですか。						
項目	園長	%	保育者	%	全体	%
文法（高校までの英語学習）	1	5.6	3	5.7	4	5.6
幼児英語（英語活動を指導できるスキル）	2	11.1	4	7.5	6	8.5
幼児英語（幼稚園で使用できる英語・英会話）	15	83.3	43	81.1	58	81.7
その他	0	0.0	3	5.7	3	4.2
合計	18	100.0	53	100.0	71	100.0

小数第2位以下四捨五入

## IV. 考察

### 1. 私立幼稚園の英語活動の実施状況について

調査の結果、英語活動の実施率が95.8%であることから私立幼稚園において英語活動は積極的におこなわれていることになる。

幼稚園は小学校の英語教育と違い、読み書きよりも英語に触れること、英語を聞くことが主となる為、外国人講師による英語活動はこれらの条件を満たしていると考えられる。また外国人講師が英語活動を行うことにより園児は外国人との触れ合いの場としても活用されており、私立幼稚園の英語活動の担当は、外国人講師が適していることになる。

幼稚園の英語活動が次期学習指導要領の影響を受けなければ、これまでどおり外国人講師が主たる担当であることは変わらないであろう。しかし小学校の事前学習として位置付けた場合には、小学校等のように担任とALTの関係性が必要になり、担当保育者に求められる役割も現在の英語活動とは異なるものになるのではないだろうか。

### 2. 保育者の現状と求められる役割について

保育者の英語活動への関与については、そのほとんどが外国人講師の補助をしている現状であるが、外国人講師との打ち合わせの実施率の低さからも指導の補助とは考えにくい。保育者は多くの園で英語活動を実施するにあたり使用する道具の準備、園児が参加しやすい環境づくりや安全面の配慮など活動環境の補助が主たる役割になっていると考えられる。

私立幼稚園における英語活動において外国人講師が主流の中、園長は保育者が英語活動を担当することについて、英語活動ができるのならば、という条件が付くものの肯定的な意見をもっている。これは外国人講師が英語活動を担当している理由から考えると、幼稚園の英語活動の目的に反していると捉えることができる。回答の中にも、保育者は担当しないほうがよいとの意見も多くあるものの保育者は園児との接し方を理解していることが肯定的な意見の要因となるのではないだろうか。

園長とは対照的に保育者は英語活動を担当することについては否定的である。その理由は英語力や指導力が大きな要因となっている。これは園の掲げる英語活動の目的に照らし合わせたうえでの

否定的な意見とは考えにくく、保育者個人が英語活動を実施できるか否かの結果となっている。

英語の指導力に焦点を当てると、保育者は、英語活動の担当には否定的ではあるものの、英語活動の方法を学ぶ機会が必要であると感じている。この要因となるのは、保育者の英語力や外国人講師との関係から保育者が活動内容に関わっていないことや園児にあわせた活動をおこなえない状況があるのではないかと考える。英語活動をおこなううえで、園児を対象とした活動であったとしても、クラスの特性や個人の性格など日常の関わりから見えてくる個性に対して対応させることも必要である。クラスの特性や園児の性格については外国人講師より保育者の方が知識量が豊富であることから対応はしやすくなると考えられる。

現在、保育者に求められている役割は、英語が苦手な園児や興味を示さない園児に対するフォロー、園児の安全確保を担うことであり、教えることではなく園児が参加できる環境をつくることである。幼稚園の英語活動の位置づけは小学校と異なるものの、外国人講師がALTのような指導補助ではなく主たる担当として英語活動をおこなう以上、ネイティブスピーカーというだけでは活動の目的、活動計画、園児への接し方などの活動効率を考えた場合、物足りないものになってしまう懸念もある。

幼稚園における英語活動は、外国人講師を中心におこなうが、保育者が英語活動に関する知識を理解したうえで外国人講師と協働でレッスンプランを作成し英語活動をおこなうことが望ましい。保育者が英語活動のコーディネーターとなり、園の方針や園児の状況を踏まえた英語活動の展開ができ、保育者が活動内容を把握することで安全面の懸念も最小限に抑えることが可能になるのではないだろうか。

### 3. 養成施設の学生に求める英語力について

学生に求める英語力については、会話力が求められている。幼稚園で求められる英語活動が、文法ではなく、会話や英語に触れることが目的であ

り、現状の英語活動では外国人講師が主たる担当であることが背景にあるのではないだろうか。

養成施設においては、この点を考慮した講義の展開やシラバスの作成が必要とされる。また、「英語活動を指導できるスキル」は、全体の8.5%にとどまったが、表6の結果も踏まえると会話とともに学ぶ必要があると考えられる。特に指導方法を理解することは英語活動に対して理論と園児の特性を考慮に入れた内容を外国人講師と共に立案することができるようになる。

現在、保育者は英語活動を担当することではなく、英語に対して対応することが求められているが、あわせて英語活動をコーディネートできるようになることで、園児の英語力向上の一助になると考える。

## V. 今後の課題

今回のアンケートでは、岐阜県内の私立幼稚園を対象におこなった為、一般的な状況といえない点もあるが、園長や保育者からの回答は、今後の幼稚園における英語活動の在り方を考えるうえで貴重な意見であり参考になる部分も多くある。

今後、県内の公立幼稚園や県外の幼稚園の実態を調査し比較、検討することで幅広く英語活動の実態を把握することができると考える。また今回のアンケートの自由記述の回答についても、その内容を多角的に検証していきたい。

保育者と外国人講師の関わり合いについては保育者のみに対する調査であったことから、外国人講師の立場からみた保育者との関係性についても調査が必要である。

### 謝辞

本調査にご協力いただきました、岐阜県内の私立幼稚園の園長先生ならびに先生方に深謝いたします。

### 注

- i) 2012年にベネッセ総合研究所がおこなった第2回幼児教育・保育についての基本調査報告書は園児数30人以上の国公立幼稚園、私立幼稚園、公営

保育所、私営保育所、認定こども園の園長等を対象におこなったもので、サンプル数は、合計発送数 29,100 で有効回答数 5,221 (有効回答率 17.9%) である。うち国公立幼稚園が発送数 2,700 に対して有効回答数 456 (有効回答率 16.9%)、私立幼稚園は発送数 5,000 に対して有効回答数 921 (有効回答率 18.4%) である。第1回は、2007年に国公立幼稚園、2008年に保育所を対象に調査をおこなっている。

#### 引用文献

- 1) 秀真一郎: “幼児教育現場における英語活動－保護者の捉え方にみる課題－”, 吉備国際大学研究紀要, (24), pp.43-51, 2014-4
- 2) 糸山昌己: “次期学習指導要領にみる幼児英語教育”, 東京成徳短期大学紀要, 第51号, pp.13-25, 2017-10
- 3) 秀真一郎, 木本有香, 中島眞吾, 烏田直哉, 小野克志, 志濃原亜美, 横井一之, 田中卓也: “幼児教育現場における英語活動の実態とその方向性”, 吉備国際大学研究紀要, (23), pp.21-28, 2013-3
- 4) 横井一之: “幼児期の英語教育について－早期教育、幼小連携から考える”, 英語と文学、教育の視座, pp. 180-190, 2015
- 5) ベネッセ総合研究所: “第2回幼児教育・保育についての基本調査報告書”, <https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=4053> (2018年10月8日最終参照)

#### 参考文献

- 1) 加茂葉子, 藤原愛: “保育士養成課程の学生に対する英語学習に関する追跡調査: ESP (English for Specific Purposes)”, 育英短期大学研究紀要, 第30号, pp.81-94, 2013-3
- 2) 濱名陽子: “私立大学附属幼稚園 私立大学附属幼稚園の魅力に関する一”, 教育総合研究叢書, (6), pp. 99-109, 2013-03